

箋注倭名類聚抄男女尾張本、曲直瀨本、乎佐女下有興字、類聚名義抄同、興景行紀傍訓合、按女胥有呼乎佐女者見源氏物語須磨卷、及枕冊子、又榮花物語若枝卷、連言刀自乎佐女卽長女之義似源君之時俗有是名故借景行紀領字訓乎佐女者爲之猶借專字爲姥也然則似不可併與字引之、然標目無領字、注亦單云呼老女爲專不云謂女胥爲領有興字爲是○猿樂記用是字是老女之多字女借用專字後又從女以別專壹字者與說文專壹字從女作婢其義不同然此引景行紀則作婢恐非源君之舊謂老女爲多字米見土佐日記按景行紀云五十五年二月以彥狹島王拜東山道十五國都督然到春日穴昨邑臥病而薨之五十六年八月詔御諸別王曰汝父彥狹島王不得向任所而早薨故汝專領東國此所引即是專領謂專壹主領也應神紀推古紀亦專壹之專訓多字女神武紀繼體紀敏達紀用明紀皇極紀孝德紀天武紀並訓多久女以後世語多久轉爲字者例之專訓多字女者蓋多久女之轉也又按神代紀云石凝姥此云伊之居梨度咩則訓多字女老女之呼多字女其語雖同原自異不可不辨別也然老女之多字女是止女之轉則宜言止字女猶謂家刀自爲家止字自今借訓多字女之專字者可疑或切多字則得止故呼止女爲多字女借專字爲之抑語原與止女不同耶俟他日詳考

〔増補雅言集覽登十〕とじ略 中
いへとじ遊仙窟娘子既是主人母是はあるじの女をいふたゞ人以
妻にもかよはしていふたゞ人以
ハトシ
の部に出いへとうじも音便にのべていへる
したるいへとうじなりあはせみるべし

〔倭訓栞前編十八〕とじ 婦女の通稱也、とじめともいへり、隋書禮儀志に、承衣刀人采女とならべり、是なるべし、倭名抄の説は心得がたし、建暦御紀に、刀自御膳宿臺所各別也と見ゆ、萬葉集にははとじ、おもとじといへるは、老女の稱也、吾兒のとじなどもいへるは、少女をも稱せるなり、日本紀に夫人をおほとじと訓じ、三代實錄に、妓人をとじとよめり、薩戒記に、内侍所の刀子などいへ